

映像通報システム（Live119） 実証実験の結果について

～119番通報を「見える化」する～



令和6年3月14日（木）
消防局 通信指令課

取組み

令和5年5月8日（月）～11月8日（水） 6か月間

	実証実験	広報
4月		事前広報
5月	実証実験開始（5月8日）	
11月	実証実験終了（11月8日）	
12月	結果の取りまとめ	
3月	運用開始	運用の広報

映像の受信状況

同意	火災	11件	<u>74件</u>	}	受信	火災	8件	<u>51件</u>
	救助	24件				救助	15件	
	救急	34件				救急	23件	
	その他	5件				その他	5件	
				未受信			23件	

※ 同意を得られなかったのは2件

映像取得成功率：約7割

(未受信の理由)

- ・電波環境が悪い地域からの通報

主な奏功事例

火災

- ✔ 車両火災で、周囲に住所表示や目標物がなかったが、スマートフォンの位置情報を取得して正確な発生場所を早期に特定することができた。
- ✔ 住宅火災で燃え広がっていることが確認できたため、早期に消防隊を増強し効果的な消火活動が実施でき、隣家への延焼を阻止した。
- ✔ 人の着衣に燃え移った火災では、火傷の状態をドクターカーの医師と共有し、適切な応急手当の指導と医師による判断の迅速化が図れた。

主な奏功事例

救助

- ✔ 車両が大破した交通事故で、事故車内に閉じ込められた負傷者の状態をドクターヘリの医師に映像配信し、早期に医療介入することができた。
- ✔ 登山者が負傷した山岳救助では、負傷者の位置を特定し、防災ヘリコプターと連携して早期に救出することができた。

救急

- ✔ 心肺停止の救急では、通報者のスマートフォンに心臓マッサージの方法を映像で配信し、救急隊の到着まで効果的な応急手当が実施された。
- ✔ 蜂に刺され全身にアレルギー反応が発症した危険なショック状態では、適切な口頭指導を行い、救急隊と情報共有した。

実証実験結果

まとめ

- ✔ 119番通報時の適切な口頭指導と、通報者等による効果的な応急手当が実施された。
- ✔ 消防指令センターと消防隊が災害現場映像を共有し連携した活用に効果があった。
- ✔ スマートフォンの位置情報を取得して、正確な発生場所を特定することに効果があった。



- ✔ 有効な情報収集と、消防隊等との情報共有により円滑な消防活動が行え、**災害による被害の軽減と救命率の向上が図れたことから運用を開始します。**

運用開始日

令和6年3月1日(金)から運用開始